

中心市街地の活性化計画と 町有地の有効活用



質問者
齋藤 永 議員

商工業が衰退しスーパーや銀行も撤退した当町に、活気を取り戻していくことが必要と感じております。しかし、新松田駅前広場は車の渋滞で歩行者、特に子どもやお年寄りの通行は危険な状態にあります。一方、JR駅前広場に隣接する町有地の有効活用が、言われ続けております。

これらのことを踏まえ、未来の町の姿を創生すべく「中心市街地や商店街の活性化計画」を策

定するため、住民や事業者を含めた協議会設置の考えは。

また、JR駅前広場周辺を活性化するために、町有地の有効活用のお考えは。

A

中心市街地の活性化に向けて

回答 (町長)

新松田駅を中心とした北口周辺整備計画について、地権者・交通事業者・商工関係者・駅利用者等を含めた協議会発足

に向けた取り組みを行っている。

JR駅前広場周辺の町有地の有効利用は、新松田駅北口周辺整備との連携や、他の町有地などを含め総合的かつ一体的に活用して、定住対策等に結び付けられるような施設等の整備を計画する予

定。

今後は、住民や交通事業者等、多くの方々の懇話会を開催していきたい。また、住民の夢や意見を取り入れて、将来のまちづくりに向けた都市マスタープランを作成するため、27年度予算に組み入れていきたい。

寄地区生活排水処理施設の 計画実施を



質問者
飯田 一 議員

町は平成22年2月19日に「松田町生活排水処理施設運営審議会」から答

申を受け、その内容を寄地区住民を対象に説明会が開催され、また審議会の付帯意見に基づき再度詳細な計画を立て、比較検討することでしたが、報告はされてお

寄地区生活排水処理に

ついて、審議会の答申以降の方向性が示されておりません。単独浄化槽設置の家庭では耐用年数を超えたものもあり、いつ壊れるかわからない状態にあります。

町の姿勢をお伺いします。

A

**H28年度末までに
方向性を決定**

回答 (町長)

平成22年2月19日に、松田町生活排水処理施設運営審議会から答申があった。答申の付帯意見にある実勢単価による組み替えのため、23年度に高低差を確認の調査測量委託を行った。この間、23年に発生した東北大地震

等を契機に、設計内容の見直しなどの要因により大幅に作業が遅れたが、公共下水道建設費約27億円という数字が出た。本年1月に、農林水産省・国土交通省及び環境省の三省から、「持続的な汚水処理システム構築に向けた都道府県構想の見直しの推進について」が通知された。このマニュアルを踏まえ、松田町においての考え方を平成28年度末までに方向性を決め、地域住民に周知するよう、詳細研究を進めていく。



JR駅前広場周辺